



Title	岡田新教授略歴および研究業績一覧
Author(s)	
Citation	大阪大学英米研究. 2021, 45, p. 3-10
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/99452
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka



岡田 新 教授

岡田 新 教授

略歴および研究業績一覧

【略歴】

1974 年 3 月	愛知県立旭ヶ丘高校普通科卒業
1974 年 4 月	早稲田大学政治経済学部政治学科入学
1978 年 3 月	早稲田大学政治経済学部政治学科卒業（政治学士）
1978 年 4 月	名古屋大学大学院法学研究科博士前期課程入学
1980 年 3 月	名古屋大学大学院法学研究科博士前期課程修了（法学修士）
1981 年10月	大阪外国語大学外国語学部英語専攻 助手
1985 年 4 月	文部省在外研究員オックスフォード大学マンスフィールドカレッジで研究（1987 年 3 月まで）ss
1989 年 1 月	大阪外国語大学外国語学部 英語専攻 講師
1993 年 1 月	大阪外国語大学外国語学部 英語専攻 助教授
2003 年 1 月	大阪外国語大学外国語学部 英語専攻 教授
2009 年10月	大阪大学言語文化研究科 教授（現在に至る）
2012 年 4 月	大阪大学言語文化研究科言語社会専攻副専攻長
2018 年 4 月	大阪大学言語文化研究科筆頭副研究科長、言語社会専攻長
2018 年 4 月	大阪大学教育研究評議会 評議員
2019 年 4 月	大阪大学言語文化研究科 研究科長

【研究業績等一覧】

著書

1. 『世界システムの歴史的構図』共著，溪水社，1993 年，松田，阿川，他

と岡田の共著. ウォーラステインの世界システム論について各国史の研究を踏まえて多角的に検討. 「自由党再生の構造」を執筆. pp.60-83. (全 240 頁)

2. 『西洋政治思想史Ⅱ』共著, 新評論, 1995 年 4 月. 藤原編, 飯島, 姜他と岡田の共著. 西洋思想史に関する共同研究の成果. 「ラスキー自由主義と社会主義の狭間で」の章を執筆. pp.269-286. (全 450 頁)
3. 『世界地域学への招待』共著, 嵯峨野書院, 1998 年 3 月. 世界地域学の構築をめざす共同研究の成果. 選挙史研究の課題を論じた「選挙の歴史学」を執筆. pp.283-298. (全 462 頁)
4. 『ネイションとエスニシティ』共訳書, 名古屋大学出版会, 1999 年 4 月. 巢山, 高木他と岡田の共訳書. ナショナリズム研究として評価されるアンソニースミスの研究の翻訳. 第 8 章「伝説と風景」を執筆. pp.205-244. (全 344 頁)
5. 『英語で読む社会科学の古典: Classics of the social sciences』共編著, 嵯峨野書院, 1999 年 9 月. Terry Ochs と岡田との共著. 欧米の社会科学の英語のテキストを収録. 編集と解説を担当. 日本の社会科学の特徴を論じた章を執筆. pp.1-2, pp.14-15, p.26, p.43, p.98, pp.134-135, pp.160-169. (全 169 頁)
6. 『日米の社会保障とその背景』共著, 大学教育出版, 2010 年. 杉田他と岡田の共著. 社会保障の制度の問題を世界史的視点から論じた研究. 「20 世紀初頭自由党政権下の社会政策と選挙政治 - 1906 年 - 1910 年 1 月」を執筆. pp.7-65. (全 397 頁)
7. 『書誌をつくる』共著, 日外アソシエーツ/紀伊国屋書店, 1997 年. 日本索引家協会による代表的な書誌を紹介する書物. 「世界を学ぶブックガイド」についての論考を再録. P.128-142. (全 295 頁)

学術論文

1. 「イギリス実証主義者と労働運動」(査読有) 単著, 『法学雑誌』大阪市

- 立大学, 1982 年 12 月. ビーズリーら, イギリス実証主義者の論説を分析し, イギリス労働組合運動に係った彼らの社会観をサンシモン的な産業社会の流れに位置付けた. pp.231-280.
2. 「自由主義の倫理とオプティミズム: イアン・ブラッドレーのヴィクトリアン・リベラリズムの研究について」単著, 『英米研究』大阪外国語大学, 1987 年 3 月. ヴィクトリアン・リベラリズムの本質を理性への楽観主義として捉えたブラッドレーの研究を批判的に紹介し, 自由主義の歴史研究の課題を析出. pp.281-297.
 3. 「自由主義への反逆と「国家的効率」—シドニー・ウエップ研究の視点」単著, 『英米研究』大阪外国語大学, 1988 年 3 月. フェビアン社会主義者シドニー・ウエップの社会主義の中核が「国家的効率」の推進にあることを考察. pp.261-288.
 4. 「自由党再生の選挙基盤—新自由主義論争とエドワーディアン・リベラリズムの構造: 要綱」単著, 科学研究費報告書『世界システムの変容と国民統合』大阪外国語大学, 1991 年 3 月. イギリスにおける 20 世紀初頭の自由主義の再生をめぐる論争(「新自由主義論争」)の重要な論点である両党の選挙基盤の問題についての批判的考察. pp.29-41.
 5. 「自由帝国主義と新自由主義——エドワーディアン・リベラリズムの形成—1—」(査読有) 単著, 『大阪外国語大学論集』大阪外国語大学, 1991 年 7 月. 19 世紀末における自由帝国主義と新自由主義についての研究史を批判的に整理し研究課題を析出. pp.167-188
 6. 「自由党再生の地帯構造」単著, 『英語圏世界の総合的研究』大阪外国語大学, 1993 年 3 月. 20 世紀初頭の自由党の再生が, どのような地域的な特徴をもっていたかを自由党の獲得議席をベースに分析. pp.113-134.
 7. 「自由帝国主義と新自由主義——エドワーディアン・リベラリズムの形成—2—」(査読有) 単著, 『大阪外国語大学論集』大阪外国語大学, 1994 年 3 月. 19 世紀末における自由帝国主義と新自由主義についての研究史を批判的に整理し研究課題を析出. pp.251-268.

8. 「第一次大戦前の自由党と労働党－イングランド一人区，1900年～1910年12月」単著，『英米研究』大阪外国語大学，1995年3月．20世紀初頭の自由党と労働党の選挙基盤の重なりを政党の対決パターンの変化の影響の分析を通して考察．pp.169-185.
9. 『世界を学ぶブックガイド』－世界地域研究基本文献目録」単著，書誌索引展望／日本索引家協会 編，1996年2月．企画編集に携わった『世界を学ぶブックガイド』を専門誌に紹介．pp.19-25
10. 「近代イギリス選挙史研究序説－第三次選挙法改正後のイギリスの政治変動」単著，『イギリス研究の動向と課題』大阪外国語大学，1997年3月．第三次選挙法改正後のイギリスの政治変動についての研究の課題を析出．pp.125-159
11. 「ハロルド・ラスキの苦悩と孤独－Isaac Kramnick & Barry Sheerman の伝記によせて」単著，『英米研究』23号，大阪外国語大学英米学会，1999年3月．ユダヤ人政治学者ハロルド・ラスキのイギリス労働運動との複雑な関係についての分析．pp.151-163.
12. 「アイルランド問題とイギリス政治の転換－1886年総選挙における自由党の分裂－」単著，『グローバル・ヒストリーの構築と歴史記述の射程』大阪外国語大学，2000年3月．第三次選挙法改正後のイギリスの総選挙の研究の起点となる1886年総選挙における自由党の分裂の影響を分析．pp.121-134.
13. 「19世紀末における自由党の衰退」（査読有）単著，『国際社会への多元的アプローチ』大阪外国語大学，2001年3月．19世紀末における自由党の衰退を選挙過程に即して分析．pp.35-55
14. 「書評：Martin Pugh, The making of Modern Britain－各版の異同と改訂の意味－」（査読有）単著，『Ex Oriente』Vol.9. 大阪外国語大学言語社会学会，2003年3月．イギリスの碩学ピューの研究を，各版の異同について詳細に分析した書評論文．pp.225-241.
15. 「自由党の衰退と反攻－19世紀末イギリス総選挙と補欠選挙－」（査読

- 有) 単著, 『英米研究』 28 号, 大阪外国語大学英米学会, 2004 年 3 月.
19 世紀末イギリス総選挙と補欠選挙の分析を通して, 自由党の衰退から反攻への過程を析出. pp.173-194.
16. 「1906 年総選挙と自由党の再生－20 世紀初頭の補欠選挙と 1906 年総選挙における対決の構図－」(査読有) 単著, 『英米研究』 第 30 号, 大阪外国語大学英米学会, 2006 年 3 月. 1906 年総選挙と 20 世紀初頭の補欠選挙における政党の対決の構図の分析を通して自由党再生の要因を析出. pp.1-35.
17. 「1906 年総選挙における自由党の再生と労働党－二人区の得票分析－」(査読有) 単著, 『英米研究』 第 31 号, 大阪外国語大学英米学会 (2007 年所収), 2007 年 3 月. 1906 年総選挙における二人区の得票分析を通して, 自由党の再生と労働党との協力関係について考察. pp.1-31.
18. 「1906 年総選挙における自由党の選挙基盤－一人区の得票分析」(査読有) 単著, 『英米研究』 第 32 号, 大阪大学英米学会, 2008 年 3 月. 1906 年総選挙における一人区の得票分析を通して, 自由党の再生の要因について考察. pp.13-36.
19. 「自由党政権下の補欠選挙－綻びる自由党の基盤 1906 年－1909 年」(査読有), 単著, 『英米研究』 第 33 号, 大阪大学英米学会, 2009 年 3 月. 1906 年－1909 年自由党政権下の補欠選挙の分析を通して, 綻びる自由党の基盤について考察. pp.11-36.
20. 「危機の時代の自由党－補欠選挙 1911 年－14 年」(査読有) 単著, 『英米研究』 第 35 号, 大阪大学英米学会, 2011 年 3 月. 1911 年から 1914 年の補欠選挙の分析を通して, 自由党の選挙基盤が侵食されていく過程を考察. pp.31-68
21. 「憲政危機と勝利の陥穽——1910 年 1 月総選挙と 12 月総選挙－」(査読有) 単著, 『英米研究』 第 36 号, 大阪大学英米学会, 2012 年 3 月. 1910 年 1 月総選挙と 12 月総選挙の分析を通して, 憲政危機で勝利した自由党の選挙基盤の動揺を考察. pp.55-94

22. 「投票率と 1910 年総選挙」(査読有) 単著, 『英米研究』第 37 号, 大阪大学英米学会, 2013 年 3 月. 1910 年 1 月総選挙と 12 月総選挙の投票率の違いが, 選挙結果に及ぼした影響を分析し, 両者の相違の歴史的意味を考察. pp.1-28
23. 「第一次大戦下の補欠選挙 1914~1918 - 総力戦の衝撃 -」(査読有) 単著, 『英米研究』第 38 号, 大阪大学英米学会, 2014 年 3 月. 1914 年から 1918 年の第一次大戦下で行われた補欠選挙の分析を通して, 愛国主義的労働者候補がもたらした変化について考察. pp.87-124.
24. 「サルフォード北補欠選挙と自由党の衰退」(査読有) 単著, 『英米研究』第 39 号, 大阪大学英米学会, 2015 年 3 月. 第一次大戦下で行われ, 愛国主義的な労働者候補が議席を獲得し重大な影響を及ぼしたサルフォードの補欠選挙の分析を通して, 大戦が政治の構造にもたらした変化について考察. pp.1-29.
25. 「1918 年総選挙と自由党・労働党 - 一人区における政党の対決の構図」(査読有) 単著, 『英米研究』第 40 号, 大阪大学英米学会, 2016 年 3 月. 1918 年総選挙の一人区における労働党と自由党の対決の構図を分析し, エドワード時代の政治構造の終焉を剔抉した. pp.1-16.
26. 「1918 年総選挙と自由党・労働党 - 二人区における政党の対決の構図」(査読有) 単著, 『英米研究』第 41 号, 大阪大学英米学会, 2017 年 3 月. 1918 年総選挙の二人区における労働党と自由党の対決の構図を分析し, エドワード時代の政治構造の終焉を剔抉した. pp.1-26.
27. 「自由党の分裂と労働党 - 1918 年総選挙二人区の戦況」(査読有) 単著, 『英米研究』第 42 号, 大阪大学英米学会, 2018 年 3 月. 1918 年総選挙の二人区における自由党の分裂が労働党の伸長にもたらした影響を分析し, エドワード時代の政治構造の終焉を剔抉した. pp.73-91.
28. 「1918 年総選挙二人区における自由党と労働党 - 労働党が議席を獲得できなかった選挙区 -」(査読有) 単著, 『英米研究』第 43 号, 大阪大学英米学会, 2019 年 3 月. 1918 年総選挙二人区で労働党が議席を獲得で

きなかった選挙区の戦況を分析し、エドワード時代の自由党との同盟の継承の成否の重要性を明らかにした。pp.1-28.

29. 「1918 年総選挙一人区における労働党の戦績」(査読有) 単著、『英米研究』第 44 号、大阪大学英米学会、2020 年 3 月。1918 年総選挙一人区における労働党の戦績を分析し、エドワード時代の自由党との同盟の影響を析出した。pp.11-29.
30. 「変貌する労働党の肖像-K.O. モーガンのイギリス労働党研究について」単著、『現代社会主義社会の新動向』大阪外国語大学、1989 年 3 月。現代の社会主義についての共同研究の報告書に、オックスフォードの現代史家モーガンの研究を紹介。Pp.75-84.

その他

1. (企画編集)『世界を学ぶブックガイド』共編、嵯峨野書院、1994 年 9 月。「世界地域研究基本文献目録」編纂委員会」の事務局として企画編集、一部項目の執筆を行った。日本図書館協会選定図書。
2. (企画編集)『日本文化へのまなざし』共編、河出書房新社、2004 年 1 月。大阪外国語大学と産経新聞社が共催して開催してきた司馬遼太郎記念学術講演会の講演録を講演会の事務局として企画編集した。日本図書館協会選定図書。
3. (翻訳)「近代イギリスの選挙社会学 1」単著、『大阪外国語大学論集』大阪外国語大学、1993 年 3 月。イギリスの選挙史研究の起点であり、新自由主義論争のきっかけとなったクラークの論稿の翻訳。pp.225-235.
4. (翻訳)「近代イギリスの選挙社会学 2」単著、『大阪外国語大学論集』大阪外国語大学、1994 年 3 月。イギリスの選挙史研究の起点であり、新自由主義論争のきっかけとなったクラークの論稿の翻訳。pp.317-328.
5. (翻訳)「近代イギリスの選挙社会学 3」単著、『大阪外国語大学論集』大阪外国語大学、1994 年 8 月。イギリスの選挙史研究の起点であり、新自由主義論争のきっかけとなったクラークの論稿の翻訳。pp.221-230.

6. 「贅沢な学問空間－イギリスの大学に学ぶということ」単著、『大学と学生』文部科学省高等教育局学生課，2002年8月．イギリスへの留学の実像をデータとともに紹介．pp.18-20.
7. 「大学街・オックスフォード」単著、『学術的観光コンテンツの開発に関する研究』大阪大学言語文化研究科，2006年3月．学術的観光コンテンツの開発に関する共同研究の報告書に，オックスフォードの大学街としての魅力を紹介．Pp.39-42.
8. (企画編集)『外国語教育のフロンティア 1』共編，大阪大学言語文化研究科，2018年3月．言語社会専攻長として企画編集にあたった『外国語教育のフロンティア』シリーズの創刊号．刊行の辞(p.1)を執筆．
9. (企画編集)『外国語教育のフロンティア 2』共編，大阪大学言語文化研究科，2019年3月．言語社会専攻長として企画編集にあたった『外国語教育のフロンティア』シリーズの2号．
10. (企画編集)『外国語教育のフロンティア 3』共編，大阪大学言語文化研究科，2020年3月．言語社会専攻長として企画編集にあたった『外国語教育のフロンティア』シリーズの3号．
11. 「本を読む祭りービブリオバトル顛末記」単著、『遼』司馬遼太郎記念財団，2020年7月．大阪大学司馬遼太郎記念学術講演会で実施しているビブリオバトルの顛末記